

賀川 豐彦 著



看護婦崇拜論

北川信芳

三書



賀川豐彥著

看護婦崇拜論

看護婦崇拜論

賀川豊彦

看護婦精神の權化

看護婦
の
銅像

世に、尊敬すべきものは多くあるけれども、弱者貧民のために、まことを捧げて奉仕の生活を送る清い人々ほど尊敬すべきものは、またとない。

倫敦市の中央、チャーリング・クロスといへば、東京の日本橋とでもいふべき所であるが、その近くにある大英美術館の東側に、一人の看護婦の銅像が立つてゐる。背後に、十字架の徴が刻まれ、前面には、獨逸兵といはず、佛蘭西兵といはず、敵も味方も區別しな

いで、彈丸に傷付いた多くの兵卒を抱きしめて看護してゐる一婦人の銅像が刻まれてゐる。

私は世界を廻つて、多くの銅像を見たが、看護婦を尊敬して、街の中央にその像を建てゝゐる所は、英國の他に見なかつた。なぜ、英國民がこの一人の看護婦のために、銅像を建てたであらうか。それには深い理由がある。歐洲戦争の初期に、ベルヂアムは戦亂の巷と化した。そのとき、英國軍に従つて、看護に派遣せられたカベルといふ婦人があつた。獨逸軍の侵入があまりに急退であつたために、カベル女史が主任となつてゐた野戰病院だけが、後に残されて、英國軍は後方に退却してしまつた。敵の包圍のなかに残されたカベル女史は、戦争を超越して、猶も負傷兵の看護に餘念がなかつた。多

くの獨逸兵の負傷者も、カベル女史の病院に運ばれた。女史は英國兵のその如く、獨逸兵をもわが子の如くいたはつて、敵味方の區別をせず、若き兵卒を愛し慰めた。然し、戦争に昂奮してゐた獨逸の將校達は、あまりに健氣な女史の心持ちを理解せずして、女史を疑ひ始めた。そして遂には英國軍の派遣した、軍事探偵であるとして、銃殺することにきめられた。銃殺にきめられたカベル女史は、最後の瞬間になつても、猶平然として敵兵を勞り、砲口の前に立つてかういつた。『唯、愛國心だけでは足りない』これが彼女の最後の言葉であつた。彼女は彈丸に貫かれて、その場に倒れてしまつた。

愛國
以心
上

私はカベル女史の銅像の礎石に刻まれた、彼女の最後の言葉『愛國心だけでは足りない』と云ふ文句を讀んで、

私の眼のなかに涙の泌むのをおぼえた。愛のためには、敵味方を區別せず國境を越えて、總ての傷病者をいたわつた美しき看護婦の胸に、今日世界の大國民が持つてゐる、最も大なる缺點を心から味はつたのである。愛國心だけでは足りない！ もう少し大きな愛を持つて、人間と人間が相愛しなければならぬ、といふことを彼女は考へたのであつた。彼女は血を流してまでも、さうした深い愛に立つてゐたのである。

十字架の靈發

私はこの偉大なる女性の銅像の前に立つて、これこそ誠に、世を救はんために、十字架にかゝつたイエス・キリストの精神を、最も深く味はつた人であると思つた。

今日まで多くの銅像が立つてゐる。倫敦市最大の教會であるセン

ト・パウロ大伽藍を訪問しても、そのなかに竝んでゐる多くの銅像は九部通りまで、戦争に従事した將軍達のものであつて、敵を傷病者をいたわつた、看護婦の銅像などいふものは一つも見つからない。勿論、日本の何處を探しても、看護婦の銅像なんか建つてゐる所は、何處にもない。獨逸にも、佛蘭西にも、露西亞にも、看護婦の銅像は建つてゐない。看護婦の銅像の建つてゐる所をさいたことがない。

然し、實際銅像を建てねばならぬとすれば、私は、將軍達の銅像を建てるまへに、看護婦の銅像を建てるのが、ほんとうだと思ふ。人を殺し萬骨をさらす、將軍達の銅像よりも、弱者を愛し、萬人をして甦らしめる、看護婦の銅像を建てるのが、眞實であるとい

はねばならぬ。

私は英京ロンドンに、世界に於るたゞ一つの看護婦の銅像が、衆目的となる場所に据えられて、それが如何にも崇敬的にあがめられ、多くの花輪で埋められてゐるのを見て、感謝したのであつた。

キリスト教精神と看護婦事業

新約精神と看護婦

私が看護婦を崇拜しようといふのは、只冗談でさういふのではない。かういふ言葉を發するにあたつて、私は決して浮いた心があるのではない。私は新約聖書の精神を通して見た人間の事業のなかで、看護婦の事業ほど神聖にして、且、崇高なるものを見ないのである。イエス・キリストは嘗てかういふ言葉をいはれた。「健康なる者は醫者の助を需す唯病ある者これを需む、我來

れるは義人を招くためにあらず、罪ある人を招きて悔改めさせんためなり」と。

世の中には景氣のいゝ時だけ、媚び諂ふ者はあるけれども、その人が一旦病氣になり、貧乏になつて來ると、顧みないものが多いのである。弱者をいたわり、病人を保護するといふことは、天の使のやうな心持ちを持つてゐるものでなければ、容易にできるものではない。世の中の多くの人が、金儲けに忙しく奔命してゐる時に、我身を忘れて、血の續いてゐない人のために、徹夜までして苦勞することは、並大抵の人間にできるわけではない。看護婦の仕事はまさしく、イエス・キリストの精神から出たものである。

看護事業の歴史的發達

古代の看護運動

元來、貧民弱者の友となる運動は、キリスト教の信者の間には、古くより行はれてゐたことであつて、今より千八百年も前のことを書いた、ユーセビウスの信仰史の中には、迫害せられてゐる基督教徒が、傳染病におそはれて困つてゐるアレキサンドリアの町などで、進んで看護事業に従事し、みづからたほれても、喜んで自分を迫害するものをすら看護した記事が残つてゐる。歐羅巴に於て、病院らしいものができたのは、修道院のうちに設けられたものが最初であつた。これらの人々は全く營利を離れて、神への奉仕のために、病人の世話をしたのであつた。伊太利のフロレンスの町で、覆面をして、道に倒れてゐる病人を救護する看護婦隊の組織などもあつた。アルプスの山中では、雪の中になやむ病人

を世話する爲に、特別に犬まで飼つて、行路病者を喚ぎ出す工夫までした。その氣風は今なほ、ローマカトリック教會のなかに残つてゐる。神父ダミエンは太平洋の孤島、モロカイ島に、癩病人の友となり、廿餘年の永きに亘つて、憐むべき天刑病者の父として、終りには自分も、その病氣に感染し、癩病人保護の急先鋒として、倒れたごときはその一例である。

敵を愛するも赤十字

此精神を汲んで、フロレンス・ナイチンゲールが、初めて赤十字の組織を、クリミア戦争の時に、完成したのであつた。赤十字といふのは、その名の示す如く、赤き十字架の意味である。即ち血に染つた十字架の精神を持つて、敵といはず味方といはず、すべての傷病兵を看護するといふことが、赤十字の精神

となつたのである。イエス・キリストが十字架にかゝつてまでも、世の弱者を愛した如く、自分の一身を犠牲にして、病人のために奉仕の生涯を送らうといふのが、赤十字の精神である。

赤十字の運動により、看護の職分は、近世に於て最も明瞭になつた。それはイエス・キリストの直傳の事業を、地上に遂行しようといふのが、その精神であることが、明確になつた。その事業はたゞに、戦時に於てのみならず、平和な時に於ても、なほ遂行せられてゐる。

今日赤十字の運動は、日本の隅々まで行き亘つたが、赤く塗られたる十字の意味が、なにを意味するかを全く知らないものが多い。しかし、それは、血で塗つたイエス・キリストの、犠牲的精神を意

味するものであつて、日本人は知らずして、キリストの愛に接觸しつゝあるのである。

崇拜の五つの理由

崇
の
根
の
據

かう考へてくると私は、ます／＼看護婦を尊敬せざるをえない。否、私は崇拜といふ言葉をこのところで使はう。

私は看護婦を崇拜するに、五つの大きな理由を持つてゐる。

- 一 看護婦は、尊ぶべき女性である。
- 二 看護婦は、神聖なる労働者である。
- 三 看護婦は、弱者に奉仕する尊敬すべき人々である。
- 四 看護婦は、最も厭な仕事を、最も美しく生かさんとする人々である。

五 看護婦は、犠牲の權化である、イエス・キリストの直弟子である。

私は以上五つの點について、今一つ／＼考へてみたいと思ふ。

女性 の 勝利

偉大な女性

男の人に尊敬すべき人は多い。然し、世界の人口の半分を占める女の中に、尊敬すべき人々が果してないだらうか。否私は、かへつて女性の中に、多くの尊敬すべき人々を見出す生存競争の劇しい時代に於ては、いつも女が虐待せられて、虫けらの如く輕蔑せられてゐるけれども、實際は、女性の大きな愛を離れて、世の文明文化は、決して保たれるものではない。今日まで女性は、退嬰的であると罵られ、穢はしいものであると輕蔑せられ、感

傷的であると侮辱せられてきたけれども、民族保存の上から、婦人はやむなくさうした役目をつとめてきたのである。婦人の感情は繊細である。それは、民族を愛し、子孫をいたわるために、細心の注意を拂はねばならないから、自然さうした感情を神が與へたのである。病人をいたわり、弱者を世話するには、男のやうな荒つぽいやり方ではうまいかない。女性の温かい愛によつて、初めて病人が甦るのである。女性はまことに注意深く、また感じが早い。そして落ついて、一つの仕事に従事する美しい習性を持つてゐる。之が病人を世話するに、誠に適當した習性であつて、婦人でなければ、到底かうした細心の注意を持つて、病人の傍で、長く人を世話することはできないのである。今日まで、女性は保守的であるといはれ

てきた。然しこの保守的な感情が、病人を怠らず看護するに、まこととに適當してゐるのであつて、男子のやうな移り氣の心持では、病人を世話することはできない。

道的性

道德性からいふても、今日の女性には男子に比べて遙かに高い情操を持つてゐる。日本の犯罪率をみても、女性の犯罪率は、男子のそれに比べて二十分の一である。女性は、禮儀が正しく、すべての態度が美しく、病人の感情を柔げるには、まことに適當してゐる。かうした女性が、持つて生れた民族保存の本能が、病者をいたわるに、最も適してゐるといふことが、看護婦の職業に營利を離れて婦人達が趣く理由である。まことにかうした美點を持つた婦人達によつて、看護せられる病人こそ幸である。その美しい

愛によつて、幾百萬人の病人が毎日、勢つけられ、天よりの慰めを経験してゐるのである。看護婦こそは天の使である。崇拜しない者は、發狂してゐるか、馬鹿であるといつてさしつかえない。

神聖なる労働者としての看護婦

職業婦人としての看護婦

然し、ある人はいふであらう、「看護婦もやはり職業であるから、生活に困つてゐる者が、やむをえず、さういつた仕事をするのであるから、神聖でもなんでもない。否、いやしくしてゐるのであるから、かへつて不神聖である。看護婦などを崇拜する理由が解らない」と。私はさうした人に答へる。

たとへやむをえず、看護婦の職業を撰ぶ者があるにしても、それは決して輕蔑すべきものではない。第一自ら進んで、いかなる職業

でも厭はず、勞働をしようといふ心持が、すでに尊ぶべき心持である。今までの如く、すべての婦人は家に引籠つて、お茶や花で一生を送らうといふやうな、奥様な安逸の生活を貪ることを、最もほむべきものと考へてゐた時代より、一步進んで自分の生活は自分で立て、行く、と決心して、職業婦人の道を選んだことが、已に尊敬すべき心持ちである。勞働は神聖である。殊に看護婦の如き職業は、最も神聖なものであつて、普通の勞働とは違ふ。

勞働の神聖

私は働いて居る人を見ることが好きである。凡ての暇な人々が、人の勞力によつて、生きてゐるのと違つて、貧乏な人達が、辛じて生活するために、勞苦することは、實に神聖なものであると私は考へてゐる。

勞働にもいろいろの通りがあるが、そのなかでも看護婦の仕事のごときは、最も神聖なものである。酒を造つたり、彈丸を製造したり、成金の慾望を満足させるやうな、裝飾品を製造する勞働とは異つて、人を生かし、人間そのものを救ふ看護の事業は、他のいかなる職業よりも、神聖な職業である。しかもこの職業は、物品を取扱ふやうな簡單な職業ではなくて、直接に人格に接する職業であるから、誠に尊いものである。

看護婦にイキなし

この生存に最も必要なる、保健運動に従事するものは、一面職業的であるけれども、他面に於て、文化的事業にたづさはつてゐるものと考へてさしつかへない。醫者と看護婦は、永久にストライキをしてはならぬといはれてゐる。成程その通りで

あつて、汽車や汽船を製造する労働者は、同盟罷業をして、國民は直接さうすぐには困らないが、醫師と看護婦がストライキするならば、その國の病人は、次の瞬間から困るのである。

これ程大切な労働は、國民教育に従事する教師達とともに、國民の中軸の運動をする人達であつて、それに従事する人達こそ、愛國者中の愛國者であるといはねばならぬ。

況んや、看護婦達が、危険をかへりみず傳染病患者の手當をし、深夜人が寢静まつてから氷を割る光景をみては、何人もその労働が、金錢を離れたる、愛と奉仕の運動であることを、思はざるをえないであらう。

看護婦の威嚴

それであるから、西洋では、醫師に對する尊敬よりか、看護婦に對する尊敬の方が遙かに高いものがあつて、米國の病院の如きは、患者を醫者に預けるといふよりか、寧ろ看護婦に預けると云ふ觀がある。それもそのはず、醫者は短時間しかその病人に接しないけれども、看護婦は四六時中、その患者に附いてゐるのである。そのために西洋では、看護婦が主張する場合には醫師と雖も、手を下せない場合がある。それ程看護婦は高い地位を與へられ、殆んど患者に對する絶對の權限を與へられてゐる。

この尊い労働に従事する愛國者を、何人が崇拜せずに置くことができるだらうか。春に種を蒔き、秋に刈り取る百姓を、生産者として崇拜するならば、國民の生命を預り、病者をして蘇生せしめる看

護婦を、物的生産者以上に崇拜しないものは、誠にどうかしてゐる。

観智に
看護婦

私はある大學の教授が、外科手術で最も困難であるといはれてゐる開腹術を行つてゐる光景を、見せてもらったことがある。成程醫師は偉いと思つた。然し、私はその時、醫師を助けてゐる看護婦にも、非常に感心した。看護婦達は、開腹術を行つてゐる教授が、この次ぎ何を必要とするかといふことをチャンと知つてゐて、何百からある諸道具をチャンと、頭の中に覚えてゐて醫師が要求する前に手渡ししてゐる。その神妙な態度には全く驚歎すべき或物があると思つたのであつた。

看護婦の事業は只、感情だけでは出来ない。その労働は深い科學

的素養を必要とし、観智の導くとともに病氣に對する臨床的敏活さを持たなければならぬのである。一つの繻帶、一つの注射に彼女の科學的智識と、人道的熱愛が混融し、結晶し、病人の生命に、びつたりと觸れて、患者の生理的再生力を、速かに促すやうな、方法をとらなければならぬのである。この科學的にして、藝術的な労働は、鑄物工場に働く労働者以上の注意を必要とする。彼女達はまことに、最も科學的な労働者であり、最も藝術的な創作家であるといひ得ると思ふ。

人間改造
看護婦

獨逸の詩人ゲーテは、人間を改造する熔礦爐を創造してその事を「ファウスト」といふ、有名な戯曲詩の中に書いてゐるが、看護婦こそ人間改造の大きな熔礦爐の役をつとめる勞

働者であるといふ。私は人間を蘇生せしめ、病人の健康を恢復せしめる労働者は、畫布の上に色を塗る藝術家より、さらに、神聖なる藝術家であつて、彼女達の努力によつて、青ざめた顔が林檎色に塗られ、やせ衰へたる肉體が、ヴェイナスの女神像の如く輝く。彼女が誠に、人體の上に彩る畫家であり、肉塊の上に妙技を揮ふ彫刻家であるといひきよう。石や畫布の藝術家を崇拜するものは、この人體の藝術家を崇拜せねばならぬ。

弱者の友看護婦

紐育にヘンリーストリートセツルメントといふのがあつて、彼女のセツルメントは、紐育の細民部落に、看護婦を派

ワイド女史の業

遣することを目的としてゐる。労働階級の部落に於ては、家庭に一人の病人があつても非常に難儀をするのである。救濟事業の發達した都市に於ては無料診療所から薬は貰へるとしても、看護婦を雇ふだけの金はない。殊に一家を支へてゐる主人公が、病氣した場合に、病氣の夫を病床に残して置いて、彼の妻は泣く／＼工場にその日の糧をうるために、出勤しなければならぬ。またその反對に病氣の妻が、多くの子供を抱いてゐる場合でも、夫は妻に對する看護の義務を盡し得ないで、みす／＼病氣の妻が困るとは知りながらも、妻に與へるその日の糧を得るため、作業場に急がねばならぬ。かうした困難を救ふ爲に、ワイド女史は二百數十名の看護婦の同志と共に、無料看護の團體を組織し、數十ヶ所に支部を設け、電話

がかゝつて來れば、直ちに貧民街に、出掛けうるやうに、看護婦の溜場所を設けて居るのである。此の事業の如きは實に、人間の爲し得る最も神聖な事業であつて、宗教的精神のない人には、一寸出來ない仕事である。

巡回看護班の功績

我國に於ても、大正十二年の關東に於ける大震災以後、恩賜財團濟生會が、下谷、淺草、本所、深川の四區に、數組の巡回看護班を設けてゐるが、それ等の巡回看護班に加はつて細民街を毎日毎夜巡回した看護婦達の仕事は、實に目醒しいものであつた。細民街の人々は、彼女達を女神の如くにうやまつたものである。

誠にかうした細民街の特志看護婦達は、生活の物資を保證せられるとはいへ、並大抵の決心では出來ないのである。そこに住んでゐる者さへが、塵埃と、不潔のために多く斃れつゝある位であるから纖弱い女性がこの地方を巡回して、病人の世話をするといふことは、健康上からいつても、随分冒險的な仕事なのである。然し、献身的精神に燃えてゐる彼女達は、砂漠のやうな貧民街を、巡回して倦むことを知らない。私は彼女達の姿を見る時、一種崇嚴なる感に打たれるのである。

成金醫師と無産看護婦

醫師は同じく保健事業に従事してゐても、看護婦の幾倍か、否時によると幾百千倍の報酬を受けてゐる。中には人の病氣によつて、成金になつてゐる醫者もすくなくない。然し、その勞働に於て、幾倍の、否、その心配に於ては、幾十倍の重い責

任を負はされてゐる看護婦は、殆んどその日の生活賃銀だけで、神聖なる國民保健運動に従事してゐるのである。彼等こそ實に弱者の友であつて、人間のうちに最も尊敬すべき部類に屬する人達である。私は無産階級に奉仕する看護婦ばかりでなく、有産階級に雇はれてゆく看護婦でも、その事業は、實に偉大なるものがあると思ふ。有産階級といへども、財産をもつて病氣に勝つことは出来ない。彼等はやはり、病氣のまへには弱者である。その弱者に對して、熱愛を捧げ、それをいたわる看護婦こそ實に、人道の戰士であるといはねばならぬ。日本の婦人は勝氣であるから、派出看護婦に出掛けても、多くの場合、殆ど金錢を離れて、その病人の健康を恢復させることを一念に祈願し、病人を癒すことをたゞ一つの誇にしてゐる。

誠に彼女等は、勝利の徴として、橄欖の青葉を冠として貰ふことを喜んだ古代希臘の、オリンピックのチャンピオンに似てゐる。私たちが彼等を崇拜する心持ちは、さういふところから湧くのである。

下座奉仕者としての看護婦

誰が肥
すみかを

イエス・キリストがかつて次のやうなことをいはれたことがあつた。

「爾等のうち最も大いならんと思ふものは、先づ人に雇はれるものとなれ」と。この言葉の意味は、理想の國に於て、最も偉大なるものは、人を使ふものでなくて、人に使はれて、いやな仕事に従事するものが、眞に偉いものであるといふことである。良く社會改造論者の間に問題になることであるが、理想國に於ては、誰が肥汲みを

するか？といふことは、頗る興味ある問題である。イエス・キリストの考では、理想國に於ては、最も偉大なる人物が、肥汲みの役をみづから進んでするのであるといはれる。この事を理解しない人が多い。最も厭なことは他人にさせて、自分だけ偉い事をしようといふのが普通の人間の考へさうなことである。然しそれでは、理想の國を出現させることはできない。

看護婦 では英雄

文明が段々進むとともに、英雄の種類はだん／＼變つてきた。四年八月月に亘つた歐洲戦争の如きも、英雄のない戦争といはれた位である。今日では英雄の種類が變化してきた。今日のやうなデモクラシーの時代に於ては、他人のかしらになるものは、必ずしも民衆に比べて、傑いわけではない。たゞ、機會と、

民衆の信頼がさうさせる場合が多いのである。今日に於ては、英雄が必ずしも人の頭にたつわけではない。武勇的英雄の時代はもう過ぎ去つた。今日に於ては寧ろ、奉仕的英雄が期待される時代となつた。佛蘭西の文豪ロマン・ローランがかつていつたことがある。『廿世紀の英雄は、實驗室に閉ぢ籠る英雄である』。即ち、したいこともしないで、研究に専念し、人類の福祉のために、我身の幸福を忘れて努力するものは、廿世紀の英雄である。この意味に於て、看護婦も確かに英雄である。

何人も彼女達を尊敬してくれない。然し、彼女等は、最も人々の恐れるベストの病室にも近づけば、結核病室にも、徹夜の看護を辭さない。多くの民衆が傳染することを恐れて、わざ／＼隔離する病

人の處へ、進んで看護にゆくものは看護婦である。看護婦は恐怖といふものを知らない。

看護婦は恐怖を知らず

かつて世界の英雄といはれたナポレオン大王は、佛蘭西から伊太利に侵入する時に、アルプスの嶮を越へねばならなかつた。その時は、もう雪が、アルプスに積つて、到底、大軍をやる事が出来なかつた。然し、ナポレオンはいふた、『俺の字引には不可能といふことは書いてない。』と、その大王ナポレオンにも似て、看護婦の辭典には恐怖と云ふ文字が書いてないとみえる。

私はある結核療養所を訪問して、看護に従事してゐた、うら若い女性達が、また結核に傳染して病床に呻吟してゐる有様をみて、彼女達に對し、云ひ知れぬ感情と、尊敬を捧げざるをえなかつた。

私は彼女達の寝てゐる病床の前に立つて、そつと涙を拭いたのであつたが、彼等こそ實に、英雄中の英雄であるといはねばならぬ。唯不幸にして世間は、その事を認めず、これらの英雄を、只無名の女性として、次の世界に送り込んでゐるのである。しかし、これらの無名の英雄なくしては、今日の社會は成立つてゆかないのである。

偉大な看護婦の死

あの恐ろしい、流行性感冒の傳播した大正九年の春のことであつた。私は感冒にかゝつた一人の青年を病院に連れて行つた。青年の附添看護婦は、かへつてその青年の病毒に感染し彼女は青年の退院する前に病死してしまつた。その時私は思つたことであつた。踏切を越へる通行人を危険より救はんとして、かへつて轢死した踏切番人を、人道の戰士として表彰することはあるけ

れども、この静かなる犠牲的戦士を表彰する人は誰もない。彼女は人知れず職業的犠牲として、何人にも顧みられず死んでゆくのである。

或は結核の病室に、或は癩病の病室に、一生を送る看護婦こそ新らしき時代の英雄であるといはねばならぬ。人を殺す將軍達を崇拜する者があるならば、この厭なおそろしい病魔と戦つて、人類を救済せんとする、廿世紀の英雄を、私はすゝんで崇拜しよう。

十字架の戦士としての看護婦

最大の愛

『人その友の爲に生命を捨つる之より大なる愛はなし』と、イエス・キリストはいはれた。(新約聖書ヨハネ傳第十五

章十三節)

人のための犠牲となり、我身を忘れて、深夜病人のために苦勞する看護婦こそ、誠に愛の權化であるといはねばならぬ。クリミヤ戦争の時に、赤十字の運動を創設した、フロレンス・ナイチンゲールだけが偉いのではない。今日、日本の國には無数のフロレンス・ナイチンゲールがかくれてゐる。彼女達は知らずして、イエス・キリストのいはれた愛の奉仕に、身を粉に碎いて居る。

看護婦の建設した養老院

私の知つてゐた一人の看護婦は、自分が看護婦として働いた、僅かの収入をもつて、多くの老人を世話して居た。その人の名は寺島のぶえといふのであるが、彼女の創立した神戸養老院は、今日でも神戸市に残つてゐる。彼女は若い時に結婚して、ある事情の爲に夫と別居してゐたが、別居して後、看護婦をし

てその生計を維持することができた。その勞苦のなかに彼女はイエス・キリストの精神を發見し、どうかしてイエス・キリストの如く一生を他人のために送らうと思ひたつて、派出看護婦に行き、その得た僅かの金をもつて、世の最も不幸なる養育者なき老人を、自分の家にひきとつて世話することを始めた。一人が二人となり、二人が三人となり終には自分の細腕で、九人まで老人を世話してゐた。それを見た同じ看護婦の友人達が、相集つて、友愛看護婦會といふものを組織し、派出看護婦として勞働して得た金を、寺島のぶえ女史の例にならふて、みな養老事業に献金した。私はこの事業を、明治四十二年頃初めて知り、更に寺島のぶえ女史に逢つて、彼女の事業を驚歎の眼を以て見たのであつたが、私が看護婦を尊敬したのは

全く寺島のぶえ女史を知つてから後のことである。私は貧民窟に住んでゐた關係上、毎年、數人の老人を寺島女史の養老院に送つたが、私はその養老院ほど、美しい救濟事業をかつて見たことがなかつた。そこに送らるゝ老人は、大部分病人であつたが、經營者と經營者の團體が看護婦の群であるために、如何なる老人と雖も、決してあるそかには取扱はれなかつた。すべての老人は、自分の親の如くに取扱はれた。私はこの高貴なる精神の持主である、寺島のぶえ女史を通して、初めて看護婦精神の心髓にふれたのである。彼女は多くの勞苦の後、世を去つたが、彼女の精神は永久に、神戸養老院の事業のうちに残つてゐる。

無名の看護婦の一群

然し、日本には隠れたる寺島のぶネ女史の如き多くの看護婦があることだと思ふ。私はこの點に於て、看護婦を尊敬し、また崇拜するのである。誠に「人その友の爲に生命を捨つ、これより大いなる愛はなし」といはれたイエスの言葉のごとく、看護婦の生活は、イエス・キリストに最も近い生活である。

唯、不幸にして、日本の多くの看護婦が、この神聖にして、尊敬すべき事業にたづさわりながら、その平常なしつゝある職分を自ら輕蔑し、看護婦の事業が社會の最も忌むべき事業であるかの如く、考へるものが少くないのである。

これらは全く看護婦の心臓が、神の子イエス・キリストから出て來てゐることを知らないから、さうなるのであつて、只表面だけを

見たり、報酬の多寡を考へるから、そんな考へを持つのである。どうしても、イエス・キリストの十字架の精神を信じ、飽く迄も、弱者病者のために、身を犠牲にして倒れる覺悟がなければ、この神聖な勞働も誠に忌むべき仕事として、悲觀せられるのである。

犠牲愛
白衣の群

私は日本の看護婦達を尊敬し、また崇拜するとともに、この尊敬する女性達の間、キリスト愛の精神が、まだ充分浸潤してゐないことを、悲しむ者である。私をして一層深く彼等を崇拜せしめるために、看護婦精神の權化ともいふべき、イエスキリストを信じ、彼の精神を病室に、手術室に、傳染病院に、路傍に貧民窟に、漲らして貰ひたいものである。或人はいふた「今日イエス・キリストの直弟子は、病人の友である看護婦のなかに、残つ

てゐる』と。多くの人が十字架を逃げんとする時に、看護婦だけはよろこんで十字架に近づく。私はイエス・キリストを崇拜するとともに、彼の十字架を擔ふて、勇敢に戦ひつゝある看護婦をもまた、崇拜する者である。まことに、犠牲の勞苦を厭はない白衣の群こそ、現代に於ける、生きた聖徒の群であるとはねばならぬ。彼等を崇拜せよ。彼等こそ、誠に神の子の姿をもつてゐる者である。

昭和十一年七月二十六日
昭和十一年七月二十六日
昭和十一年七月二十六日
昭和十一年七月二十六日
昭和十一年七月二十六日

【定價一部金拾錢】

不許 複製

東京市世田谷區上北澤町二丁目六番地
 著作兼 發行者 賀川 豊彦
 東京市京橋區湊町三丁目二番地
 印刷者 木 藤 秀雄
 東京市京橋區湊町三丁目二番地
 印刷所 三 豊 社

發行所

東京市世田谷區 雲の柱社
 上北澤町二ノ六〇三

電話松澤二一八七番
 振替東京七二七五四番